



中国の禅房十事



館 隆 志

画：正親里紗

前回までで、「禅房十事」の半分を取り上げてきました。今回は、個別の品物の説明はひとまずお休みして、日本とは別に中国に存在した「禅房十事」についてお話ししたいと思います。

中国の南宋時代、臨済宗の希叟紹曇禅師の語録『希叟和尚広録』には、「禅房十事」として、「蒲龕・紙被・禅板・蒲団・拄杖・扠子・鉢盂・戒刀・香印・癢和子」が記されています。

このうち、蒲龕は仏間やお寺という意味もありますが、ここでは室内の道具ですから、蒲団の一種かと思われます。でも、蒲団は別に記されているので、蒲団の下の敷物なのかもしれません。

紙被は紙製の寝具で、今で言う「布団」のことです。紙製の「布団」と言うと意外な感じがしますが、当時の中国禅林では一般的でした。

禅板・布団・拄杖・扠子についてはこれま

でに紹介しました。鉢孟おひょうもうまというのは食事の器のことで応量器おひょうもうまとも言います。食事の器であるだけでなく、托鉢たくはつに際しても用いられます。本誌四月号で、僧侶に必要な道具として紹介しました。

戒刀は髪かみの毛や髭ひげなどを剃るのに使います。和尚さんの頭がいつも坊主頭ぼうしうなのは、和尚さんが日頃、剃刀かみばしを使つて頭の手入れをしているからなのです。

香印は香炉かうろのことで、焼香やうかうの時に使う道具です。香炉かうろについては、後日お話しします。

癢かゆ和子わしは如意にぎという住持ぢゆうぢ(住職)が使う道具です。拄杖ぢゆうぢ・扠子ぢゆうぢ・竹篋ちやくけつと同じように、説法せっぽうなどの行事の時に手に持つて用います。

こうしてみますと、未詳みしやうの「蒲龕ぼこん」と、「紙被しひ」という紙製しせいの「布団ふだん」以外は現在まで継承けいそうされていると言えるでしょう。

希叟きそう禪師ぜんじは、日本の記録きらくとして最も古い「禪房十事ぜんぼうじゅうじ」を書き残した大休正念たいきゅうしやうねん禪師ぜんじと同時代に活躍かつやくした中国僧ちゆうごくそうです。大休たいきゅう禪師ぜんじも日本

にやつてきた中国僧ちゆうごくそうです。しかし、同じ中国人ちゆうごくじんが同時代どうじだいに残のこした「禪房十事ぜんぼうじゅうじ」でありながら、日本にっぽんと中国ちゆうごくとでは約半分やくはんぶんのものが異なっています。これまでに紹介かいした「禅板ぜんばん・蒲団ぼだん・拄杖ぢゆうぢ・扠子ぢゆうぢ」以外いげに、日本の「禅房十事ぜんぼうじゅうじ」と重なかさっているのは、香印かういんが香炉かうろとして登場ていじやうするだけだけなのです。いったい、なぜななぜなのでしょうか？

ここで目を転まじて、鎌倉時代けんそうじだいの日本の禅寺ぜんじでどのような修行生活しゆぎやうせいふくが営いまれていたかを見てみまみしょう。鎌倉時代けんそうじだいの禅寺ぜんじでは、中国ちゆうごく式の建物しゆくたうぶつで、中国ちゆうごく式の儀式しやくしが行いわれ、説法せっぽうは中国語ちゆうごくごでも行いわれていました。

南宋時代なんそうじだいの禅寺ぜんじの修行生活しゆぎやうせいふくが日本にっぽんに再現さいげんされ、中国僧ちゆうごくそうが日本にっぽんの禅寺ぜんじで中国語ちゆうごくごで説法せっぽうしていたのです。当時の異国情緒いごうじゆうあふれる禅寺ぜんじの様子は「唐国たうこくの如ごとし」と形容けいようされています。ですから、鎌倉時代けんそうじだいの日本にっぽんの禅寺ぜんじは、中国ちゆうごくの禅寺ぜんじと似通につた修行生活しゆぎやうせいふくであつたと考えかんがえられます。



ところが、同時代の中国の「禪房十事」と、日本の「禪房十事」では異なる点が多々あるのです。希叟禪師は日本僧に人気が高く、十人近くの日本僧が留学中に参じました。鎌倉時代の日中禅僧の交流を象徴する僧侶の一人なのです。しかし、日本で受容された「禪房十事」は、希叟禪師のものではありませんでした。

确实ではありませんが、日本の「禪房十事」は、来日した中国僧によって、日本に合わせて改変された可能性が高いと考えています。仮に中国ですでに二つの「禪房十事」があったとしても、一方だけが流布したのには何らかの理由があったはずです。

日本と中国の「禪房十事」を見てみますと、日本のものの方が、現在の僧侶の生活に馴染み深い道具が多いように感じます。中国の蒲龕・紙被・香印・癢和子などの名称は、現在の日本の禅寺では馴染みがありません。日本の「禪房十事」は、おそらく日本での修

行や布教に役立つと考えられた道具が名を連ねているのでしょう。

ですから、「禪房十事」は、鎌倉時代の禅寺に必要な道具を教えてくれるだけでなく、当時の日本人にとって、禅の何が重視されたのかを示してくれているのです。

日本の禅が独自の展開を遂げていき、後に「ZEN」として世界で認められた淵源が、ここにあるのかもしれませんが。

次回より日本の「禪房十事」に戻ります。今後、中国の「禪房十事」との違いにも注目して見ていただければ幸いです。

館隆志（たちりゅうし）

一九七六年静岡県沼津市生まれ。二〇〇九年駒澤大学大学院博士課程修了、博士（仏教学）。現在花園大学国際禅学研究所研究員。著書に『園城寺公胤の研究』（春秋社）、『蘭溪道隆禅師全集』第一巻（共編、思文閣出版）。